



# 自治連だより

第21号



## ご挨拶

鳥取市自治連合会  
会長 渡邊勤治郎

皆様には、平素より鳥取市自治連合会の諸事業に格別のご理解ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、地方創生が発せられて足掛け三年、本市においても、雇用促進の一翼を担う誘致企業の新社屋が目につくようになり、子育て支援や観光振興、移住促進等の発展的施策にもいち早く取組まれています。

一方で、国が示した中山間地域の創生策は専門化や規模拡大が主流で、地域に根付き伝来の土地を守りたいと言う兼業農家等の思いとは異なり、空洞化が進む市街地においても、郊外型店舗に賑わいを奪われながらも、伝来の地を大切に思う心は同様と思います。

このところ、各地区では、子どもや若者世代を巻き込んだ様々な行事が活発に展開されています。これらを各種団体の行事も含めて、より多く地区民が参加できる形に変えて行けば、地区に活気と絆の輪が大きくなり、地区でできる地域創生になると思います。

また、自治会等の役員になりたくない、会費の負担が大変、加入のメリットがない等で自治会離れが進む昨今、未加入層や将来を担う若者層の意見も大切に、参加しやすい、参加したくなる様な自治会づくりに推進することも重要と思います。本市自治連も、地域発展のために寄与できればと思っていますので、皆様のご協力をお願いし、再任のご挨拶いたします。

平成二十八年度

## 定期総会

鳥取市自治連合会は、平成二十八年五月十三日、とりぎん文化会館小ホールにおいて、各地区より選出された百三十五名の代議員の出席のもと、定期総会及び講演会を開催いたしました。

講演会では、「人口減少時代の地域づくり」～地域力を育てる～のテーマで、鳥取県副知事 林 昭男氏をお迎えし、「三十分圏内で海や山に行ける鳥取の魅力を活かし、都会地にはない愛着やコミュニティを一緒に取り組んでいきたい」との地域づくりについてお話がありました。

総会では、渡邊会長があいさつを述べた後、永年にわたり町内会活動に功績のあった地区会長や町内会長等を務めて退任された六十三名の方々に、市長及び鳥取市自治連合会長からそれぞれ感謝状と記念品が贈呈されました。続いて、深澤市長及び山田総務企画



定期総会 講演会

委員長から祝辞をいただいた後、表彰者を代表して前会長の谷村萬吉氏から謝辞が述べられました。市政概要では、



定期総会

企画推進部久野局長から「鳥取市創生総合戦略」について、説明を受けました。次に、議長団に安木美保地区会長と須崎面影地区会長を選出し、議案の審議に入り、以下の議案が承認されました。

- ・平成二十七年事業報告並びに収支決算報告、監査報告
- ・平成二十八年度事業計画（案）及び収支予算（案）
- ・役員承認

### 新役員

会長	渡邊 勤治郎
副会長	南部 敏
副会長	竹森 貞美
副会長	村上 誘子
副会長	大西 隆秀
副会長	下澤 理如
監事	岡田 一壽
監事	土橋 周美
監事	田中 雅勝

# 大和地区

## オール大和

大和地区自治会

会長 中村克彦



横枕因幡の傘踊り

大和地区は、鳥取道を南に下る時、「ここは鳥取市玉津です」と標識がある一帯七集落二五〇戸余りからなる地域です。

大和と言えば、横枕の傘踊りが知られていますが、赤子田には麒麟獅子舞があります。

大和の歴史は古く、鳥取道建設に伴った発掘調査で古墳から甲冑や刀剣、馬具、鏡、装飾品の玉類等が見つかっていますし、横枕集落内の民家の庭には古墳の横穴式石室も存在しています。また、九二七年にまとめられた延喜式神名帳に倭文地内に所在する倭文神

社の名前が記されています。戦国時代には、鳥取城主武田高信の居城であった鴨尾城跡が玉津に所在しています。このような文化財の保存活用を通して、誇れる地域づくりをしていきたいと考えています。

また、地域住民がふれあう場として二年前に完成した多目的広場を活用したイベントを計画中です。

自治会では、それぞれの組織が連携し合いながら、また、一緒にしながら大和地区全体が活性化するような施策を進めていきたいと考えています。

# 富桑地区

## 交流・共感・共生 のまち 心そう

富桑地区自治会

会長 西川照夫

富桑地区は、千代川右岸の八千代橋と千代橋間、南北約二km、東西約五百mの間の中に位置し、二十一町内会、約千二百世帯、旧市街地にあります。

富桑まちづくり協議会は、一九九六年六月に制定された「富桑地区人権宣言」の趣意に基づき、「交流・共感・共生」の社会実現をめざし、地域の身近な課題解決に向けて全住民が結束する基本方針のもと、(一)健康でぬくもりのある優しいまちづくり (二)

歴史と文化を大切にするまちづくり (三)人権を尊重し、弱い立場の人を大切にするまちづくり (四)安全で安心なまちづくりを目標に、自治会をはじめ各種団体の協力を得て、企画委員会です業計画し、「総務部」「健康部」「福祉部」「安全部」の四部で運営しています。



富桑地区大文化祭

今年度の主な事業として、六月に地域・団体対抗の第二十回富桑地区グラウンドゴルフ大会、七月に伝統の富桑小学校の校内相撲大会を支援しています。八月に富桑地区一斉防災訓練を九月に小学校と地域と合同の第三十九回富桑地区大運動会、十月に第十二回富桑地区大文化祭を開催し、主に一日目は人権講演会、公民館教室発表会、二日目はテント村のバザーなど多彩なイベントで交流を深め、毎回延べ二千人近くの参加があります。一月に各種団

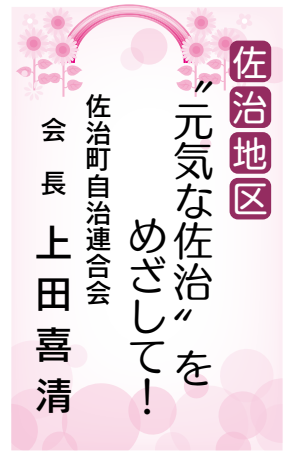
体合同で新春懇話会の実施、三月に各種団体の活動を一冊にまとめた「富桑まちづくりだより」カラー二十ページの広報誌を三年前から発行しています。



テント村交流バザー

また、年間通して、避難行動要支援者支援制度の推進活動、昨年できた富桑音頭の普及を行っています。自治会の協力で防災リーダー(現在二十名)を全町内配置をめざし、いざ災害時には校区組織として活動出来る体制をつくっています。また、子ども見守り隊の支援、佐治河本集落との交流などの活動もしています。

近年、富桑校区は高齢化が進み空き家も増えていく中、新しい家も建つなど地域が変わってきています。その中でコミュニケーションをより一層密にして、「富桑に住んでよかった」「富桑に住んでみたい」まちづくりに取り組んでいます。



佐治地区は東西に佐治川と国道四八二号線が平行して走り、国道を挟んで南北に二十七の自治会（集落）が存在しています。東は用瀬町、西は岡山県鏡野町に接し、昔から「佐治谷七里」と言われ細長い谷あいの中山間地です。佐治町では平成六年頃から語尾に「し」がつく地域の特産品等の資源である梨（し）、因州手すき和紙（し）、佐治谷話（し）、佐治川石（し）、さじアストロパークの星（し）の五つの地域資（し）源を活用した個性的な地域づくりに取り組み、平成二十年からは「五しの里さじ地域協議会」を組織して、資（し）源を有機的に結び付けた取り組みを更に積極的に進め、田舎暮らしをテーマとした滞在型観光で元気な地域づくりに取り組んでいます。今年も市街地の小学校二十五校千二百人の児童が民泊や町内で田舎暮らしを体験することになっています。民泊の日には早朝から元気な子ども達の声が地域に響き、私たち大人も元気をいただいています。次年度以降は近畿圏からの教育旅行の受け入れも始まります。しば



佐治のどぶろくで「どんでん返し」に期待

らく賑やかな子ども達の声が絶えそうもありません。また、平成二十六年三月に「鳥取市五しの里どぶろく特区」の認定を受け試行錯誤を繰り返している「佐治のどぶろく」の本格販売が秋から始まります。特区認定は県内で二例目になります。全国から募集したどぶろくの名称は「どんでん返し」に決まり、今年の「たんぼり荘春祭り」で初披露されました。試飲会ではフルーティーで美味しいと好評を博し、今後は市内の居酒屋等で試飲会を重ね、秋の本格販売に向けて準備を進めているようです。あつと驚くような「どんでん返し」で地域が活気づくことを願っています。何所も少子高齢化や過疎化が進んでいます。地域の特性を活かした「元気づくり」が成功をするよう私たちも応援しています。

## 平成28年度 先進地研修視察の概要

平成28年度自治連合会先進地研修視察は去る6月16日、高知県高知市総合あんしんセンターにおいて高知市町内会連合会と研修会を行いました。高知市町内会連合会は、地区単位町内会をもとに29の連合会で構成されており、高知市の町内活動を積極的に推進するとともに活動の基盤となる組織の強化、活性化を図り「快適で安全で安心な心ふれあう住みよい街づくり」を目標に活発に展開されておられます。住民が自主的に立ち上げた町内会連合会とのことで、県連合会組織はないものの高知市からの協力も得て地域の自治を持続させるために「地域内連携協議会」の設立に努力されています。これは、鳥取市が取り組んでいる「まちづくり協議会」に相当するもので、おおむね小学校単位(41地区)を範囲とし、各種団体と行政による協働のまちづくりを推進しているとのことでした。

平成27年3月には「高知市自主防災組織連絡協議会」が設立され、組織率89.7%、組織数743組織で地震などの大規模災害時に備えて自主防災組織及び、関係機関との相互連携を密にして地域の災害対応能力の向上を図っているとのこと。ある自主防災会では小学校、中学校の協力を得て「まなぼうさい」と称し炊き



出しや地震体験などを行うことにより、若い世代の防災意識を向上させるとともに地域の人々との交流を深めていく活動を行い、何度も同じ事を繰り返すことにより避難行動を体で覚える、という事を大切にしておられました。

お互い有意義な意見交換をし、又の再会を願いながら高知市町内会連合会の皆様に見送られ高知市総合あんしんセンターを後にしました。

(文責/副会長 村上 誘子)

東郷地区

東郷よいとこ  
一度はおいで

東郷地区区長会

会長 中嶋大地

四月二十九日地区敬老会、強面の社会福祉会長が寝ないで考えた挨拶で出席者の笑いを取って始まった。「すごい！イヤイヤ役を受けたと話していた区長さん達の動きが素晴らしい。」

やり手の公民館スタッフ演出の（水戸黄門）は大爆笑。この地区の年配者は何故か、「高校三年生」の歌が大好き。颯爽と学生服とセーラー服に身を包み全員で大合唱、若いなあ。

裏方に目をやれば、招待者の何倍もの人達が様々な役を果たしている。その懸命さに感動と感謝。「東郷はすごい」  
こども会、PTAの若いスタッフのアイデアは抜群、地区内外の参加者を集め、休耕田を活用した催しで、半端なく泥だらけにしてしまふ。泥おこしで地域起こしするんだからたいたもんだ。



風をあげるための竹ひごづくり

東郷保育園と公民館は一枚の戸で仕切られているだけ。

挨拶に来られた市長さんを、園児がソーツと見に来てるのを見て、市長さんもニコニコ顔。

敬老会、夏まつり等で大活躍の手踊り隊はよく練習しているのでまさにお見事。婦人方で組織する食品加工の「オアシス東郷」のお弁当類は、アツという間に完売。「自分は会長だから」と言っても無理、残念…。

背広より作業服の似合う校長先生と包容力のある園長がおられる。それぞれの卒業・卒園式は、送られる子供達が言葉に詰まり、立往生、想い想われた時間を噛み締める。

民生委員の人達は、「地域めぐり」「ホテル観賞」等、地区の良さを積極的に伝え、「みんなの東郷」を目指す。

防災、交通の担当者も一度役を引き受けると、その地域に対する貢献には目を見張る。

自治連で一番小規模な東郷地区だが、新米区長会長は「すごい、感動した。有難い」と言っておれば職務が務まる気がする。皆さん一度東郷に来てみませんか？



竹筒ご飯づくり

鳥取県自治会連合会の動き

平成二十七年

◇中四国自治会連絡協議会

二月十日、広島県福山市において開催され、各県連の代表者（総勢百三名）が集い、鳥取県自治会連合会からは十名が参加した。中四国各県連代表六人のパネリストが「高齢社会を迎える自治会の役割」をテーマに、それぞれ現状と課題について取組みを紹介した。

◇とっとり元気フェス二〇一六

（三月二十七日、米子コンベンションセンター）  
鳥取県主催、鳥取県自治会連合会後援。鳥取県自治会連合会から、五十六名が参加し、これからの自治会活動について事例発表を拝聴した。

平成二十八年

◇第一回正副会長会

（四月二十六日、倉吉市役所）

◇平成二十七年監査会

（五月十九日、倉吉市）

◇平成二十八年総会及び研修会

（五月二十七日、鳥取市福祉文化会館）

◎総会

・平成二十七年事業報告及び収支決算報告、監査報告

・平成二十八年事業計画（案）及び収支決算（案）

役員選出

会長	渡邊 勘治郎	（鳥取市）
副会長	松本 眞	（米子市）
副会長	笠見 猛	（倉吉市）
理事	南部 敏	（鳥取市）
理事	竹森 貞美	（鳥取市）
理事	村上 誘子	（鳥取市）
理事	大西 隆秀	（鳥取市）
理事	下澤 理如	（鳥取市）
理事	杵築 俊朗	（米子市）
理事	北村 軍二郎	（米子市）
理事	木村 吉春	（米子市）
理事	妹尾 多紀一	（米子市）
理事	福井 章人	（倉吉市）
理事	齋木 英宏	（倉吉市）
理事	廣谷 啓一	（倉吉市）
監事	岡田 一壽	（鳥取市）
監事	土橋 周美	（鳥取市）

◎研修会

・テーマ「鳥取市の地域包括ケアの取組みについて」  
講師 鳥取市福祉保健部地域包括ケア推進課 地域支援係 係長 谷口 賢司

後記

最近、全国各地で起こる自然災害を見るにつけ、地域での自治会や自主防災会の果たす役割りは非常に重要となってきています。地域住民の方との関わりを大切に、顔の見える関係を築き災害時にはお互いを支え合えるよう、防災力の向上をめざしていきたいものです。自治連だよりでは、これからも各地区の活動をより多く発信していきたいと思っておりますので、皆様からご意見、ご感想をお待ちしております。又、執筆のご寄稿をいただきました皆様により感謝申し上げます。  
（広報委員長 村上）